

# 校長室だより(No.18)

令和3年9月3日  
丹波市立黒井小学校長  
谷口 千尋

## 夏休み作品展から



夏休みに子どもたちが取り組んだ作品を展示する「夏休み作品展」を開催しました。多くの保護者の皆さん、地域の皆さんに来校いただき感謝しています。

作品の中には、たくさんの「自由研究」がありました。毎年、子どもたちがどのようなテーマで取り組むのか大変楽しみにしています。自由研究は、大正時代の新しい教育運動の中で誕生した学校などで始められた子どもたちの興味・関心と体験に重きをおいた学習活動の時間が始まりと言われていています。ちょうど現在の総合的な学習の時間が誕生した経緯と似ています。子どもたちの主体性が大切にされる今、「探求」ということを大切にしていきたいところです。

子どもたちが何について知りたいか、何に興味を持つかという「自主性」と大人の側からみて取り組んでほしい「課題性」との兼ね合いが難しいとよく言われます。しかし、課題を持つ。→調べる方法を考える。→調査する。→情報を集める。→まとめる。→発表する。の手順は同じだと思います。この問題解決的な学び方を覚えるのも自由研究の学びのひとつだと考えます。

黒井小学校の自由研究には、「古いPCを分解」や「〇〇家の避難計画」、「ヘアドネーション～私のボランティア」、「わなをしかけて虫をとる方ほう」「カマキリの研究」「ツキノワグマを知ろう」など、たくさんの楽しいものがありました。感心したのは、自由研究のために実際に体験したことが多いということです。ツキノワグマの研究では、黒井城址でクマに襲われた人がいたことをきっかけにツキノワグマに興味を持ち、兵庫県森林動物研究センターで教えてもらっていることや今後何が大切かについて背伸びをしないで考えているところにも感心しました。この研究後の新しい課題につながればよいと思いました。

「ヘアドネーション」を研究した作品では、実際に自分の髪の毛を提供する体験を紹介しています。提供しようと思った理由やその経過を詳しく、写真や文で読み手にわかりやすく説明していました。この後の自身のものの考え方に大きな影響を与える機会だったと思います。

いろいろな自由研究を見てその課題や調べていく方法を学ぶとともに、今後、自分が興味を持った課題をさらに極めてほしいと思います。